



TITLE:

# サル類保健飼育管理施設(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

竹中, 修; 松林, 清明; 後藤, 俊二; 鈴木, 樹理; 松林, 伸子

---

CITATION:

竹中, 修 ...[et al]. サル類保健飼育管理施設(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1985, 15: 29-31

ISSUE DATE:

1985-10-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163576>

RIGHT:

## サル類保健飼育管理施設

竹中 修(兼)・松林清明・後藤俊二・鈴木樹理・松林伸子<sup>1)</sup>

サル類保健飼育管理施設が昭和44年に設置され15周年を迎えた。そこで松林清明、三輪宜勝、伴野芳枝を編集担当として記念誌を刊行した。施設教官が新陣容になったこと、各種検査を基礎とした診療や人工授精など繁殖態勢も進展を見て来っており、施設の今までの活動など資料も含めて総括し新たな発展を期すること、また施設設立時に大変な努力をされた当時の職員の方々の苦勞を風化させないようにしたいと思ったことなどが刊行の目的であった。研究所内外の延べ37名(施設職員を除く27名)の人達から寄稿を賜わり、124ページの記念誌とすることが出来た。改めてお礼申し上げたい。

同じく出版物として、昭和58年11月にサル施設教官が主体となって開催した共同利用研究会「霊長類研究への実験動物学的アプローチ」(1. 霊長類と疾病)について計16題の講演内容の要旨をまとめ研究会報告書として刊行した。

昭和59年度のサル施設は外国との交流が盛んとなった。まず研究所生活史部門河合雅雄教授の仲介により、パリ動物園との間でオランウータン(ドッドゥ、♂5才)、チンパンジー(クロエ、♀4才)とニホンザル一群(長瀬群♂3頭、♀7頭)とを交換する話がまとまった。これら2頭の類人猿は、昭和60年1月20日にパリ動物園の研究官、ブレザール博士とともに来日した。博士は約3週間サル施設に滞在し、保健管理や繁殖飼育について意見交換をし、同2月中旬にニホンザル10頭とともに帰国した。

また松林清明助教授は11月下旬から2週間、マレーシア政府の招聘により同国サバ州にあるオランウータンのいわゆるリハビリテーションセンターへ出張し、健康管理や人工繁殖について助言をした。

昭和60年3月上旬には、松林清明助教授・後藤俊二助手が、文部省科学研究費補助金(海外学術調査・代表岩本光雄教授)によりインド国南部においてシオザルの採血など各種の調査に従事した。

### 1) 教務職員

飼育繁殖では昭和58年9月に導入した、コモンマーモセットに出生を見た。研究所では初めてである。

## 研究概要

### 1. 類人猿の人工繁殖に関する研究

松林清明

チンパンジーの人工授精を一步進め、精液の凍結保存法を確立するため、稀釈液組成・凍結および解凍の温度パターン等について運動能回復率を指標とした検討を重ねている。

### 2. 雄ニホンザル季節繁殖性の調節機序に関する研究

松林清明

照明時間の人為操作による繁殖期の変換実験を行うと共に、メラトニン埋込による周期変化を内分泌学的に調べている。

### 3. マカク類の成長に伴う眼内視所見の推移

後藤俊二

各種マカク類を対象に、加齢による屈折率や眼底像の変化について、いわゆる単色光撮影法を応用し観察を続けている。

### 4. ニホンザルの寄生虫相に関する研究

後藤俊二

消化管内蠕虫類を中心に、宿主の生息環境による差異や季節変動についての分析を始めている。

### 5. サル類の成長の生理学的および形態学的研究

鈴木樹理

各種サル類の成長を、血中各種ホルモン・酵素などの計測並びに生体計測によって解析する。カニクイザルとニホンザルについて研究を進めている。

### 6. サル類疾病の病理学的研究

鈴木樹理

本研究所および野外で死亡したサル類について、主に、死亡率の高いと思われる出生直後から幼若齢までの死亡例を中心に、病理学的検索を行い、その主な原因および年齢による疾病傾向および各種疾病の病理形態の解明を行っている。

## 論 文

1. Miyoshi, I., Fujishita, M., Taguchi, H., Matsubayashi, K., Miwa, N. and Tanioka, Y. (1983); Natural infection in nonhuman primates with adult T-cell leukemia virus

of a closely related agent. Int. J. Cancer. 32, 333.

2. Matsubayashi, K., Kumazaki, K., and Kamanaka, Y. (1985) ; Three successful cases of artificial insemination in Chimpanzees. Exp. Anim. 34 2: 203-206
3. 鈴木樹理, 西田隆雄, 望月公子 (1984); カニクイザル頭蓋構成骨の形態的観察。実験動物33 (3): 319-337

#### 報告その他

1. 松林清明; 飼育サル類の疾患傾向。霊長類研究所共同利用研究会記録「霊長類と疾病」24-32 (1984)。
2. 松林清明; インドネシア産カニクイザルの赤痢感染ルート。霊長類研究所共同利用研究会記録「霊長類と疾病」64-66 (1984)。
3. ニホンザルの奇形に関する総合的研究。昭和56-58年度科学研究費補助金 (総合研究A) 研究成果報告書 (分担者: 後藤俊二) (1984)。

#### 学会発表

1. 金城俊夫, 木原正子, 源宣之, 松林伸子, 松林清明; 飼育サルにおける *Campylobacter jejuni* の保菌状況。第97回日本獣医学会 (1984)。
2. 木原正子, 金城俊夫, 源宣之, 松林伸子, 松林清明; サルの糞からの *Yersinia* の分離。第98回日本獣医学会 (1984)。
3. 松林伸子, 松林清明, 後藤俊二, 鈴木樹理, 釜中慶朗, 千葉敏郎; 「ハラフクレ」死亡例の細菌学的検討。第29回プリマーテス研究会 (1985)。
4. 後藤俊二, 松林清明, 鈴木樹理; ワシントン条約批准後の我が国のサル類輸入状況。第29回プリマーテス研究会 (1985)。
5. 金子清俊, 後藤俊二; オナガザル科のサルに寄生するシラミ類と宿主との関係について。第37回日本衛生動物学会 (1985)。

#### 1984年度末 (昭和59年) 飼育頭数

種 名	頭 数
コ モ ソ ツ バ イ	10
ワ オ キ ツ ネ ザ ル	6
オ オ ガ ラ ゴ	4
コ モ ソ マ ー モ セ ッ ト	7
ワ タ ボ ウ シ タ マ リ ン	13
ヨ ザ ル	8
リ ス ザ ル	4
ノ ド ジ ロ オ マ キ ザ ル	1
フ サ オ マ キ ザ ル	5
チュ ウ ベ イ ク モ ザ ル	1
ミ ド リ ザ ル	5
バ タ ス ザ ル	2
ニ ホ ソ ザ ル	407
ヤ ク ニ ホ ソ ザ ル	21
ア カ ゲ ザ ル	187
タ イ ワ ソ ザ ル	16
ブ タ オ ザ ル	4
ベ ニ ガ オ ザ ル	6
ボ ソ ネ ッ ト ザ ル	14
カ ニ ク イ ザ ル	20
ア ッ サ ム ザ ル	3
ニホンザル×ヤクニホンザル	1
ニホンザル×アカゲザル	2
バタスザル×ミドリザル	2
マ ソ ト ヒ ヒ	4
シ ロ テ テ ナ ガ ザ ル	2
ア ジ ル テ ナ ガ ザ ル	1
オ ラ ソ ウ ー タ ソ	1
チ ソ バ ソ ジ ー	10
合 計	767

1984年度(昭59)サル動態表

区 分 種 名	入 荷		出 産	譲 渡	実 験 殺	結 核 殺	外 傷 死	管 理 失 宜	死				因	
	校 費	寄 附							呼 吸 器 系	消 化 器 系	循 環 器 系	生 殖 器 系	そ の 他	不 明
コ モ ソ ツ バ イ			2		1				1				1	2
ワ オ キ ツ ネ ザ ル			1						1					
コ モ ソ マ ー モ セ ッ ト			6				2							2
ワ タ ボ ウ シ タ マ リ ン			3						1					
フ サ オ マ キ ザ ル			1											
ミ ド リ ザ ル			2											
ニ ホ ン ザ ル		48	66	10	38	1	1		9	2	1		3	3
ヤ ク ニ ホ ン ザ ル			3		2		1	1	1					
ア カ ゲ ザ ル			33		11		1	1	1	2				
タ イ ワ ン ザ ル			2				1					1		
カ ニ ク イ ザ ル	9		3		11		2				1	1		
ボ ン ネ ッ ト ザ ル			2				1			1				
ベ ニ ガ オ ザ ル							1							
ブ タ オ ザ ル			1						1					1
ニホンザル×アカゲザル					2									
アカゲザル×カニクイザル					1									
マ ソ ト ヒ ヒ	3	1	1		10			3						
オ ラ ン ウ ー タ ン		1												
チ ン パ ン ジ ー		1												
小 計	12	51	126	10	76	1	10	5	15	5	2	2	4	8
合 計	63								36					

1) 増加総頭数－減少総頭数＝差引増加頭数

$$189 - 138 = 51$$